

書道体験(水書)書写指導



日本の伝統文化に触れることをめあてに、12月5日と12日の2日間で児童生徒の全員が書道体験を行いました。初めに、「書き初め」の由来を知り、書くときの姿勢、腕の使い方、筆の持ち方を習った後に、水書の体験をしました。水書では、「とめ、はね、はらい」に注意しながらお手本をよく見て字形よく書くこととしました。学年のめあては次の通りになります。

合同学年	学年のめあて
小1, 2年	姿勢や用具の持ち方に気をつけ、丁寧に書く。 点画の長短、接し方、交わり方に注意して筆順に従って正しく書く。
小3, 4年	文字の組立て方に注意して、文字の形を整えて書く。 文字の大きさや配列に注意して書く。
小5, 6年	点画の筆使いや文字の組立て方を理解しながら字形を整えて書く。 字配りよく書く。
中 学 部	字形、文字の大きさ、配列、配置などに配慮し、調和よく書く。

< 「書き初め」の由来 >

書き初めは平安時代に宮中行事(吉書初め)として始まったと言われています。この吉書初めでは元旦の朝に初めて汲んだ水(若水)ですった墨を使って、新年の恵方を向き詩歌を書いていたそうです。この行事が江戸時代になると寺子屋の普及に伴い一般庶民の間で広まっていったことが書き初めの由来とされています。

< 「書き初め」の意味 >

1月2日は「事始め」と言われる日で、この日に始めると何事も上達が早く、長続きすると言われています。そこで1月2日(事始め)に書き初めをし、一年間の目標や抱負、願いを毛筆で書いて決意を表したり、字が上達しますようにと願ったりしました。児童生徒の皆さんも何か目標や抱負、願いを持って行動しましょう。

ち かくどうこう

知覚動考は、知(とも)覚(かく)動(うご)考(こう)

最初の一步をなかなか踏み出せない人がいます。これは、物事を始める前にあれやこれやと考えすぎているためではないでしょうか。いくら知っていても、いくら覚えていても、動かなければ結果は変わりません。また、失敗の可能性をとことん突き詰め、リスクを減らすことはできますが、完全に排除することはできません。行動して初めてわかることもあります。とにかく、動いてみましょう。

「悩んで動かない」よりも「動きながら気づき、考える(修正する)」という選択肢もあります。

「知って → 覚えて → 動いて → 考える」

水書体験の実際

小学校学習指導要領の改定に伴い、2020年から小学校1・2学年の書写の授業に水書用筆等を使用した運筆指導が取り入れられました。また、下記の様な利点がありますので、全校で水書体験をすることとしました。

- ① 墨ではなく水を使うため、服や部屋を汚す心配がなく、準備・後片付けも簡単にできます。
- ② 毛筆で書くことにより硬筆では体感しにくい「とめ・はね・はらい」の感覚を理解し、意識することができるようになります。
- ③ 乾けば文字が消え、何度も繰り返し練習することができるので、正しい運筆が習慣化し、身につきます。

どの学年も一字一字丁寧に集中して書いていました。



学校からのお知らせとお願い

- ① 本校冬休み中の宿題は、全学年、年内最終授業日となる12/19に配布します。通常の宿題同様、欠席者への先渡しは行わず、同日以降のお渡し又は郵送となります。
- ② 冬休み前後の事務業務取扱時間
12月23日(水) 年内事務業務取扱最終日 午後4時まで
12月24日～1月4日(月) 事務業務休止
1月5日(火)～平常どおり
- ③ 12月19日までに提出があった児童生徒の書道作品を日本人会「書初め展」に出展します。ぜひ、足をお運びください。
【展示期間】 1月1日(金)～1月14日(木)
【本校児童生徒の作品展示場所(予定)】 日本人会会館2階 アトリウム
※作品展示場所は、日本人会館内で変更になる場合があります。ご了承ください。